

「本当の姿」

～どちらが本物？～

創 21 : 22 - 24

■ あなたの「本当の自分」とは？

エバングリオンとはイエス・キリストの犠牲による祝福の言葉です。それを選ばなくてはなりません。私たちの心の中には悪い言葉と良い言葉がいつも聞こえてきます。そのどちらを選ぶか、その決断を決定的にさせるものが価値観です。3回にわたってこのペテロの記事(ルカ5:2~8)から学んでいます。ペテロというのはこの劣等感の塊です。その日暮らしの漁師で大変な生活です。人々からも見下され、ガリラヤ湖のほとりで生活をしていました。ガリラヤ湖は岩場と荒地で大変な所です。彼らの頼りは自分の腕、自分の知恵、今までの経験、自分の価値観が全てです。ガリラヤ湖の魚は淡水魚ですから夜寝ている魚を狙い撃ちする訳です。だから「夜通しとった」(ルカ5:5)と書いてあります。ところが1匹も来ない。そこでイエス様が現れました。確かにいい話をする…とは言え自分たちは何十年もそれで生きていく訳だから自分の価値観のほうが優先です。だから「先生、私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。」と言葉が出ました。「でもおことばどおり、網をおろしてみましよう」(ルカ5:5)この言葉は、ペテロがペテロになれた素直さだと思います。「そのとおりにする」と(ルカ5:6)というのが大切です。

■ 偽りの姿から脱出

信仰の父といわれるアブラハムでさえも神様を信じて真実を語るのではなく、恐れから嘘をついてしまったことがあります。アブラハムは妻サラがあまりに美しい故に夫である自分の命がとられることを恐れて、エジプトとゲラルの王に妹だと嘘をついてしまいました。(創12章、20章)しかしながら、アブラハムにはいつも神様が共におられたため、アブラハムは殺されることはありませんでした。そんな彼に対して創21:22-24にあるとおり、ゲラルの王は真実を尽くして欲しいと語り、アブラハムはそのことを誓います。

ここでアブラハムにはいつも神様が共におられたとありますが、私たちにも同じように神様は共にいてくださっています。ですから、私たちも真実を尽くさなければいけません。それは私たちが偽りの姿のままではいけないということです。今まで約束を果たさず、自分が悪くても謝らない、自分を守るために嘘をついて相手を傷つける…そのようなことをしてきてはいないでしょうか。また、あなたが教会に来ている時とそれ以外の時の姿が違うということはないでしょうか。もし違うなら、その偽りの部分を捨てなければいけません。

とかく人が嘘をつく時は不安と恐れがあります。アブラハムも自分が傷つきたくない、悪い処遇に遭わせられたくないという思いから、神様が共におられるにもかかわらず嘘をついてしまいました。しかしこの嘘が後に子イサクにも受け継がれて、彼も同じような場面で同じように嘘をついてしまいます。このように、あなたがやったことは後に受け継がれてしまいます。では、それはあなた自身が悪いのでしょうか。そうではなく、悪い癖、悪い習慣などから偽りの姿がずっとあなたの家系に転々と受け継がれてきたことが原因です。なぜなら私たちは親の姿を見て育ち、見聞きしたことしかできないからです。だからといって、偽りの姿のまま親子代々人を傷つけていいはずがありません。ですから今日、あなたの偽りの姿を捨てなければいけません。

■ 1 失敗を祝福に だから繰り返すな！ 自己中心に注意

あなたはどれくらい失敗をしてきたでしょうか。そしてその失敗を何度繰り返してきたでしょうか。聖書に出てくる人たちが失敗するように、私たちも失敗はしてしまいます。重要なのは、その後どうするかです。失敗を誰かのせいにしたり、劣等感に生きたりすることなく、失敗したその癖や行為を悔いて改めることです。間違ったことに対してはごめんなさいをする、つまり悪かったことに気付く必要があります。そしてこの失敗はあなた自身の人格が悪いのではなく、その行為自体が悪かったと認めていかなければいけません。大切なのは間違ったときに元(神様が造られた姿)に戻ること。いつの時代も同じ神様が共におられることを信じましょう。また、神様が共におられる

からといって自分勝手に生きるのではなく、真実に生きましよう。

■ 2 神と共に！！

あなたが神様を知るまでの生き方は、過去を後悔し、人を傷つけ傷つけられて終わりだったのではないのでしょうか。しかし今は神様が共におられます。それにより過去の出来事、失敗を悔い改めることができるようになりました。そうした時、当時はどうにもならない問題だったものが、今は解決へと導かれていることに気がきます。そしてこの先の解決への自信となります。以前、過去のマイナスが大きければ大きいほど神様がプラスに変えてくださるというメッセージがありましたが、神様はマイナスな出来事を土台に解決へと導いてくださる方で、途中であなたを捨てたりそのまま終わらせてたりすることのないお方です。大人であろうと子どもであろうと悲しいことが起これば傷つきます。しかし、神様が必ずあなたの人生を変えてくださるのです。だからいつも共にいなければいけません。『私はいつも、私の前に主を置いた。主が私の右におられるので、私はゆるぐことがない。(詩16:8)』大事なことは神様が共におられるならば、どんなことがあってもゆるがないということです！！

■ 3 誓いを果たす！！ 偽りの自分に負けるな！！

過去の癖や価値観はあなたが生まれて5歳までに形成され、15歳くらいまでに構築、そこから実を結び始めます。このことから5歳までに経験したことがあなたの生き方になっているということがいえます。では大人の私たちはもう手遅れなのでしょうか。そんなことはありません。大人であっても神様によってあれば変えられます。その方法は、まず過去の経験や価値観が間違っていたと気付くことが必要です。そして間違った自分を見つけ、本当の自分を神様にさいて見だしていくのです。教会は宗教をするところではなく、本当の神様に出会って、本当の自分の姿を見つけ、愛されたことを知り、間違った自分の価値観を元に戻すところなのです。今までの間違った姿はあなたのいる環境によって造られたものです。特に日本の教育は一人ひとり違う子どもを皆同じように育てようとしています。そこに問題があります。しかし、だからといってそのことを責める必要はありません。そのような状況でも神様があなたを造られた姿は素晴らしかったのです。ですから、ただ元に戻ればいいのです。そのために、価値観が変わった瞬間、傷ついた過去を書き出してみましよう。その時の感情や決心したことを神様に告白し、もしそのことによって神様が造られた本当の自分をマイナスに変えてしまっていたなら、神様にごめんなさいをして元の姿に戻りましよう。そんな自分はダメだと思わず、そんな偽りの姿を今日捨てると決心しましよう。私たちは長い間、間違った用方をされ続けました。それにより自分が素晴らしく造られたことや本来の目的を忘れ、間違った用方が本当の自分だと信じるようになってしまいました。しかし私たちがいのちをかけて変えてくださったイエス様を覚え、偽りに騙されることなく、本物に目を留めていきましょう。周りの声に影響されず、また自己中心からでなく、神様からいただいた素晴らしい姿に戻り、役割を果たしていきましょう。

そして真実の人へ

私たちもアブラハムが誓ったように、この地にあっても人との間にあっても真実を尽くさなければいけません。その時に覚えておくことは失敗してもいいということ、そして大事なことは失敗した後、ちゃんと正しい元の場所に戻るということです。私たちの罪は神様に赦されました。だから私たちも赦さなければいけません。人はその罪によって痛みや弱さが分かるようになり、人に愛を流すことができるようになります。ですから、イエス様が歩まれたように私たちも神様の前に誓いを果たし、真実な人となりましよう。

(要約者：平澤 瞳)